

**第6回 県立都市公園のあり方検討会 明石公園部会
議事要旨**

1 日時 令和4年10月6日(木) 10:00~17:00

2 場所 明石市役所議会棟2階 大会議室

3 出席委員

高田部会長、嶽山副部会長、岡田委員、笠間委員、檜原委員、兼光委員、
小林委員、泉委員、中務委員

4 議題

- (1) インクルーシブ遊具の整備
- (2) 子どもの村の遊具更新
- (3) 公園利用者へのヒアリング(自然環境保全)
- (4) その他

5 議事要旨

(1) インクルーシブ遊具の整備

事務局より資料1に基づき説明。主な意見は以下のとおり。

- 1回目の施設改修のヒアリングにおいて、子どもの村だけでなく、公園内にいろいろな選択肢があることが大事ではないかという意見があった。例えば、こども広場、仲よし広場、旧市立図書館跡地といった駐車場からのアクセス性が良い場所にもインクルーシブな空間をつくれればよいという提案があった。現地視察でも、こども広場はインクルーシブな場をつくるのに適した場所だということを確認した。(高田部会長)
- 非常に良い案だと思う。大賛成。文化庁との協議は頑張ってください、必要であれば私も国と一緒にいくことも含めて共に頑張りたい。しっかりと良いものをつくるようお願いしたい。(泉委員)
- 県立の公園だが、明石の大事な場所でもあるので、ぜひ、泉委員も、県と一緒にいい場がつかれるよう、文化庁とステークホルダーとの協議は一緒に力を合わせて行っていただくようお願いしたい。(高田部会長)
- インクルーシブ遊具の整備はインクルーシブな場をつくる1つの方法。遊具も含めてインクルーシブな取組や活動をどう実現していくのかという、より大きな視点で議論しながら、その中で、こども広場に必要な遊具について検討していきたい。(高田部会長)

(2) 子どもの村の遊具更新

事務局より資料2に基づき説明。主な意見は以下のとおり。

- 現状、下段の複合遊具は古く、障害をお持ちの方が使うには難しい構造になっている。また現地でも老朽化が進んでいることを確認した。障害をお持ちの方が遠足等でここを使えるか、使う選択肢に入るかという点、現状では難しいという中で、ここをインクルーシブな場にしていくにあたっては、樹木も大切にしながら、自然環境も生かしていくべきという声があった。遊具か自然かのどちらかの選択ではなく、両方共存できるのではないかとということで、当初の計画からは樹木への影響がかなり軽減された案が事務局から出てきたと感じている。(高田部会長)
- バランスを取ろうとした案ということで大筋はありだと思うが、2点お願いしたい。1点目、上段のスライダーをやめるとしても、多くの子どもたちにとって思い出の場所である既存の滑り台の辺りに同様のものをつくっていただけないか。2点目は、駐車場。明石市の市道も通るので近隣対策は私も協力する。せっかくつくるのであれば、限定的なものではなく、段階的であったとしても、近隣の理解を得ながら良い駐車場を整備していただきたい。あそこは狭い道だが、片方は明石市立の錦城中学校。学校の敷地を若干ずらすなどして、道幅を広げることなくはないと思う。せっかく良い案であるので、しっかりした安全な通路をつくったほうがいい。(泉委員)
- 既存の滑り台の更新については、年度単位で時間をいただきたい。下段広場のインクルーシブ遊具は今年度中にも完成させることができるが、新たな滑り台となると、樹木への影響等の検討が必要。駐車場については、地元の合意を得る必要があるため、段階的な合意形成をしながら進めていきたい。(事務局)
- 県と市でしっかりタッグを組んで、良い駐車場、良い空間ができるように考えていただきたい。(高田部会長)
- 樹木への影響をなくすために園路の整備を取りやめることは、自然環境を生かしたインクルーシブな場をつくるという点では、すごく重要なポイントだと思う。一方で、上段広場へのアクセスがなくなることによって、逆に車椅子の方が使いづらい場になってしまうのではないかと思う。小林委員からイスノキ、モチノキは保存すべきという話があったが、樹木や自然環境を守るという観点で、子どもの村付近で特に気をつけるべきこと等があれば意見をいただきたい。(高田部会長)
- 今回の案は、子どもの村での調査結果を取り入れ、貴重種に対する配慮がなされているという点で評価できる。イスノキは明石公園に分布するという点自体に非常に価値がある。貴重なものを残しながらも子どもたちが楽しめる空間をつくるにはどうしたらいいのかという議論が今日スタートしたと認識している。(小林委員)
- 今回はやむを得ず樹木4本の伐採が生じるが、遊具更新のために必要な最小限レベルに抑えているため、下段の遊具整備については、この修正案で進めていけばよい

ということかと思う。自然を使った場のつくり方については、継続的にこれから考えていくということで、前回のヒアリングでは、プレーパークや自然を使ったプログラムなどの提案もあった。(高田部会長)

- 明石公園全体に言える話だが、切った部分に対して新たに環境の良好な場所を作っていくような発想ができれば良い。また、貴重な樹木や昆虫等をしっかり管理する手法として、種や挿し木等の方法で増やすという発想も取り入れることが大事。ソメイヨシノの樹勢の衰え等気になるエリアもあるかと思うので、樹木の循環も取り入れながら、それを子どもたちと一緒にやっていくというのが非常に良いかと思う。(嶽山副部会長)
- インクルーシブな遊び場のあり方として、施設型の遊具だけでなく、自然環境を生かした遊び場もある。レイズドベッドという車椅子でも植物に触れるような装置や、葉や花をちぎっても良い花壇、ひたすら朽ち木を折って虫を探すような取組など。プレーパークの中でも手作りでできるため、上段広場で展開することで、インクルーシブな公園という特徴がさらに広がっていくと思う。(嶽山副部会長)
- 今後、多様なプログラムを実践していこうとしたときに、管理者である県だけで全部実施するのではなく、市民や明石市、学識者、多様な公園利用者が、ここでやりたいプログラムをやれるような仕組みをつくっていくことが大切。むしろ、県は、そういった活動をサポートするような体制が重要になると思う。(高田部会長)
- 2段階方式でお願いしたい。子どもの村では、県が随分丁寧に障害当事者団体からもヒアリングをして進めてきた。実際、予算も動いており、現実的に心待ちにしている方がいる。行政運用上も考えると、第1弾としては現実的な対応というのは十分合理的だと思う。ただ、第2段階では、ハード面のみならず、ソフト面も含めて、自然との触れ合いを大事にする空間ということも引き続き検討していくという形でお願いしたい。インクルーシブな空間づくりと自然との触れ合いは矛盾するものでなく両立すると思う。(泉委員)
- 植物だけでなく、昆虫や小動物等に対する影響も当然考えなければならない。特に伐採する木にどういう生きものが集まっているかについて、データを持っている方もいると思うので、調査を行い、影響が出ないことを確認してほしい。(小林委員)
- ハード整備だけでなくソフト、それから市民参加によって公園をつくってことは非常に重要であり、今後も引き続き検討していくことと、様々な市民の活動をサポートしていくことは必要だと考えている。今後、協議の場をどうつくるかというテーマの1つにもなるかと思うので、市民や利用者の皆様にも参加いただいて進めていきたい。また、昆虫等への影響については、専門家にも話を聞き、どこまで許容するのか、どうリカバリーするのかということにも配慮しながら整備を進めていきたい。(事務局)
- 子どもの村で野鳥の観察等をされたら、皆さんと和む会が持てるのではないかと思

う。(兼光委員)

- 今回は、部分的に、遊具更新に合わせてインクルーシブ遊具が導入されるが、今後は、自然、樹木、昆虫、鳥を活用して手作りで遊べるような場所もつくり、障害の有無に関係なく楽しく使える場所をどうつくっていくかという議論を行う。今日はそのスタートになったと思う。この遊具の更新だけで終わるのではなく、継続的にこの場のあり方について議論をお願いしたい。(高田部会長)

(3) 公園利用者へのヒアリング(自然環境保全)

ヒアリング参加者より意見発表があった後、委員等との意見交換を行った。

各発表の要旨、意見交換の内容は「【資料3】意見発表者一覧」「速記録」参照。

(4) その他

事務局より参考資料に基づき、公園内の枯木について地図で周知し、意見聴取期間を経た後に適切に対処することを説明。主な意見は以下のとおり。

- 枯れ木に集まる昆虫や、枯れ木にしかいない昆虫もいるので、それをそのまま下に残すことはできないか。(奥津氏※)
- 切った後の木をどうするかは場合による。(事務局)
- 枯れ木でないと巣をつくれぬ鳥も生息しているため、危険でない枯れ木は、できれば残すよう配慮していただきたい。(奥野氏(日本野鳥の会ひょうご)※)
- 全ての枯れ木を切るというわけではなく、危険なものから順次切っていく。危険でないものはずっと後回しになる。(事務局)
- 誰がチェックして、どういうプロセスで決めたのかということ詳しく教えていただきたい。(丸谷氏(明石公園の自然を次世代につなぐ会)※)
- 指定管理者である兵庫県園芸・公園協会が巡視、枯れていることを確認して、報告を受けている。(事務局)
- どの木が安全性に問題があって、緊急性があるという情報を出していただきたい。(丸谷氏(明石公園の自然を次世代につなぐ会)※)
- 人が歩く園路の沿線は緊急性が一般的に高いと思っていただけたらよい。今回の台風は明石公園に限らず、倒木も含めて被害が大きかったのは事実。遠いところから飛んでくる場合もあるため、枯れ木は管理しておかないと結構怖い部分もある。(兵庫県園芸・公園協会 伊藤理事長)
- 明石公園の議論が始まった経緯があるので、こういう資料が出てきても、疑いの目で見てしまうことも理解できないわけではないが、そういうふうになっていると、いろんなことが滞ってしまう。例えば、枯れ木に子どもがもたれかかって、こけて怪我するというのも、公園管理者としてはすごいリスク。こういう議論が始まっている以上、お互いに信用を持って、議論を受け止めるというスタンスも必要になる。

その中で気になることがあれば、率直な意見を言っていただいたら、県も公園協会も対応するということ。少しずつ、お互いの信頼を持ちながら議論ができたらと思うので、お願いしたい。(高田部会長)

※ヒアリング参加者

以上